



萌木

6月号



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和8年6月23日発行

～自尊・立志・感動～

「つながり」その先に

校長 山田 勝

先日実施された体育祭では多数の保護者の皆様にご参観・ご声援をいただきました。また PTA の皆様には受付等のお手伝いをして頂き、ありがとうございました。

近隣の皆様のご理解ご支援とともに、保護者の皆様の温かい見守りの応援をうけて、生徒たちがさらに真剣に競技に取り組み集中して力を発揮することができました。また、昨年度数か月にわたるご不便をおかけした校庭改修工事による改良の成果もありよい環境の中で実施できました。今後とも、共に生徒の成長の見守りをお願いします。

体育祭での取り組みに加え、今年は50周年を迎える節目の年です。そのことを踏まえ生徒たちに考えて欲しいことを伝えたいと思い、全校朝礼では次のような話をしました。

【前略】体育祭では、どのクラスも仲間と心のバクトルをそろえて目標に向け頑張ることができ、共に力を合わせることの意義も感じる事ができたと思います。クラスの仲間とともに安心して心のスクラムを組み取り組んだことで、仲間との絆を実感し、達成感を持ってたことでしょう。

そのことは、あなた自身の成長です。共に頑張ることで得た成果を是非次の目標となる期末考査の取り組みにも生かしてください。

家庭ではそれぞれ一人で学習に向き合いますが、その時も体育祭の取り組みのように、同じように努力しているクラスの仲間のことを思い浮かべると、誘惑に負けずに、頑張る力が湧いてきます。困難や大変なこととともに向き合っている仲間がいる、と思い、全力を尽くしてみましょう。体育祭の時に築くことができた仲間との絆が、より自分に力を与えてくれるようになり、学校で共に学ぶことの意味にもつながります。

また、6月1日には七中50周年の今年、在籍している皆さんと記念の航空写真を撮りました。生徒会で取り組んでくれているキャラクターとともに、周年を迎えた年ならではの取り組みです。10年前の40周年の時に作られた記念誌を見ていたら、10年後の七中生、皆さんへ向けたメッセージがありましたので紹介します。

「みなさんこんにちは。10年前の七中生です。さて、今の七中はどうですか。

これまで先輩たちが創り上げてきた伝統、今も引き継がれていますか。夏の太陽の暑さにも負けない、七中全体が一致団結していた熱い熱い体育祭。クラスみんなで心をつなげてホール中に響く七中の美しい音色。そして何より気持ちのよい挨拶が交わされる、毎日明るく楽しかった学校。私は七中のすべてが好きでした。毎日学校へ行けば、一緒に笑って遊んでくれる友達や、授業を楽しく勉強を好きにさせてくれる先生がいた。こんな学校がいつまでも続いてくれることを私は願っています。

私が10年後にまた七中を訪れたとき、制服も変わって校舎もきれいになって、なんだか明

るくなつたなあと思えるような七中を築きあげて欲しいです。」

このメッセージを受けて、改めてここ七中で学ぶことの意味を考えてください。【後略】

共に学ぶ仲間。その仲間がいることが自分の成長の力となり、仲間の成長の力に自分もなっていく。そのような関係が作り出されることこそが、七中に集まり、共に学ぶ大きな意味となります。その環境があることを七中の伝統として受け継いでほしいと思います。